

行政視察等報告書

令和6年3月29日

米子市議会議長様

(会派の場合)

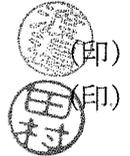
会派名 自由創政

代表者氏名 渡辺 穰爾

提出者氏名 田村 謙介

(議員の場合)

議員名



(印)

下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	田村謙介、岡田啓介
期日	令和6年3月27日から令和6年3月29日まで
[概要] (年月日・場所・内容)	令和6年3月27日～令和6年3月29日 3月27日 愛媛県松山市「国史跡道後公園湯築城跡」 3月28日 愛媛県西条市「鉄道歴史パーク in SAIJO」 3月29日 香川県高松市「高松市立玉藻公園 (国史跡高松城跡)」 いずれの施設も施設整備と運営の状況等について視察した。
[所感]	現在、国史跡米子城跡の整備が進みつつある中において、同じ国史跡でありながら積極的に復元整備を行い、シビックプライドの醸成や誘客につなげている先進事例として、愛媛県松山市の湯築城跡、香川県高松市の高松城跡を訪問した。 また退役した鉄道車両の保存展示活用に至った経緯や運営手法について学ぶため、愛媛県西条市の鉄道歴史パーク in SAIJO を訪問した。 各視察先の報告については別紙に記載する。
経費	旅費 @ 54,790円 × 2人 = 109,580円 取扱料金 @ 550円 × = 550円 合計 110,130円

## 国史跡 道後公園湯築城跡について

報告者 田村謙介

日時 令和6年3月27日(水) 15時～16時半まで

場所 湯築城跡資料館にて

説明員 湯築城資料館 館長 長野喜久男 様

### 【湯築城跡の概要】

中世末まで伊予の国の政治や軍事、文化の中心を担った湯築城は江戸期に松山藩の管理下に置かれ、明治時代は愛媛県立の植物園が整備され、昭和に入って動物園が整備されるなど都市公園として使用されてきたが、昭和62年の動物園移転後に行った発掘調査により中世の平山城としての重要な遺構が残存していることが判明し、多様な出土品も発見された。その他にも城郭の堀や土塁などの縄張り遺構が残り、城郭発達史から見ても貴重で稀な中世の城跡で、中世の主要な守護大名の拠点城郭であった点や、地域の特性を活かした伝統技法により復元が行われていたこと等から平成14年に国史跡となり、現在、日本100名城、日本の歴史公園100選に選定されている。面積は約8,5ヘクタール。

### 【整備状況について】

西口正面に湯築城記念館(管理事務所)があり、湯築城の歴史について学べるガイダンス施設となっていた。事務所には事務員のほかに、施設ガイド数名が常駐し来場者への対応を行っていた。また整備後においても、継続的に調査研究を行う学芸員が配置されていたのが印象的だった。公園整備にあたっては西側を立体復元エリア、東側を平面復元エリアとしてゾーニングしており、西側に復元された二つの武家屋敷(家臣団居住区)には、人形を配置した生活の様子再現やジオラマ、出土品、武家屋敷を構成する組木など伝統工法等の説明などが分かり易く展示されていた。東側では土塁展示室や庭園、上級武士居住区が平面表示されており、公園内の各所には合計6つのトイレが整備されていた。また「日本の歴史公園100選」に選定されており、あちらこちらに四季折々の花が楽しめる樹木や草花が植栽され、訪問が平日だったにも関わらず、家族連れや団体客、外国人観光客など多くの来訪客が園内を散策しておられた。利用客数はコロナ前が75000人程度、その後大きく落ち込み令和4年度には36000人程度まで回復し、現在も回復基調が続いている。

### 【運営について】

所管課は愛媛県都市整備課であるが、指定管理者として「コンソーシアムGENKI」が運営をおこなっている。「コンソーシアム」とは複数の企業が「共同企業体」を組成して、一つのサービスを共同で行う取引のことで、共同企業体の構成員間で協定書を締結し、役割分担を明確化し、運用、保守、賃貸借などのサービスを包括して契約できる形態がとられていた。長野館長は元々松山市職員として、多くの部長職や消防署長を歴任され、市役所定年退職後に館長に就任されたとのことで、現役時代から公園整備について関わっておられたことから、運営について詳細にお話を伺うことができた。事務所には、長野館長、事務長、学芸員、職員3名にボランティアのサポートスタッフが数名駐在しており、他にも公園管理運営チームが数名で組織されていた。公園の手入れは随時行われており、落ち葉やごみの散乱が一切見られないほどに管理されていた。県からの委託料と駐車場、その他収入の合計約6600万円で運営されている。(令和4年度)

### 【復元について】

国史跡敷地内の武家屋敷は、驚くことに「古図」を元に復元されたとのことであった。古図を参考に発掘調査を行い、その出土品や礎石の配置状況より建物の規模を断定し、城郭や石垣、建築学の専門家（地元大学教授）などによる時代考証と、当時の建築様式を総合的に判断し図面化したものを外観復元した。ちなみに屋根の形態の判定には、瓦の出土が一切なかったことから「草葺き」と断定したとのことであった。また内部構造については詳細な図面はなかったものの、礎石の位置から間取りを推定し図面化した。いずれの復元や展示方法についても文化庁と十分に協議してきたとのこと。

### 【まとめ】

現在、米子城跡は「国史跡米子城跡整備基本計画」により眺望伐採や登城路、駐車場と便益施設の整備が年次的に行われつつあり、新年度からは三の丸跡地の整備が本格的に始まるが、当初計画において15年次に記載されていた「四重櫓復元検討」が削除されるなど、米子城跡の観光資源化における重要な要件である「城郭構成物件の復元」に対し、後ろ向きな状況があると指摘されている。

また行政主導による公園整備後の在り方についても「国史跡なのでパーク PFI（公募設置管理制度）導入は検討できない」との考えが示されたが、今回の視察はこれら二つの課題をすでに解決している先進事例として、十分に参考となるものであった。国史跡を腫物のように扱うのではなく、当地の歴史を広く知らしめ、観光誘客につなげるように文化庁との協議を重ね、復元など積極的に観光資源に資する整備を行う事が、シビックプライドの醸成や、地元経済の活性化に極めて重要であると感じた。

## 鉄道歴史パーク in SAIJO について

報告者 田村謙介

日時 令和6年3月28日(木) 13時～14時半まで

場所 鉄道歴史パーク in SAIJO にて

説明員 四国鉄道文化館 館長 加藤圭哉 様

### 【鉄道歴史パーク in SAIJO の概要について】

鉄道歴史パーク in SAIJO は、JR 伊予西条駅の東隣に整備された「十河（そごう）信二記念館」「四国鉄道文化館」「西条市観光交流センター」の3施設の総称であり、愛媛県西条市によって整備された「町の駅」のような観光施設群である。この整備のきっかけとなったのが、第4代日本国有鉄道総裁であり、のちに「新幹線生みの親」と言われた十河信二氏が、かつて第二代の西条市長を務めていたことから、整備当時の西条市長が主体となり、シビックプライド醸成の政策として十河氏を顕彰し、後世に伝えるために整備したものである。西条市の出身者として近畿日本鉄道の社長を務めた佐伯勇氏や、十河信二氏が鉄道院に入るきっかけを作った台湾電力社長の松木幹一郎氏が共に「西条の鉄道偉人」として紹介されている。

### 【四国鉄道文化館 整備状況について】

四国鉄道文化館はJR 伊予西条駅の南北に整備されており、それらを結ぶ南北自由通路も整備されている。展示されているのは、十河信二が大きく関わった0系新幹線車両と、四国の鉄道無煙化に大きく貢献したDF50ディーゼル機関車1号機とDE10ディーゼル機関車1号機、急行型気動車キハ65と蒸気機関車C57、そして四国への導入検討において実際に予讃線を走行したフリーゲージトレイン試験車両が静態保存展示されている。建屋は「公益法人日本ナショナルトラスト」が建設し、屋内展示車両はJR 四国から借りたものとして展示している。屋外展示されているフリーゲージトレイン試作車は、JR 四国から譲渡されたものとのこと。

### 【公益法人日本ナショナルトラストについて】

産業革命以降、開発行為によって失われつつあった歴史、自然を保護するために1895年にイギリスで設立された「英国ナショナルトラスト」の流れをくむ日本法人で1964年に設立された。国民から託された寄付金で歴史的に価値のあるものに資金提供をして買い取ることで守っていく活動を行っており、宅地開発の憂き目にあいかけた鶴岡八幡宮の森1.5ヘクタールを、全国の市民と鎌倉市の支援金で買い取り、保護したことから1966年の古都保存法（古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法）が制定されるきっかけとなった。現在の活動内容は「自然環境を守る」「鉄道文化財を守る」など多岐にわたるが、西条市はこの活動に対し、賛同を求めた結果、四国鉄道文化館の建設に至ったものである。

### 【施設群を活かした街づくりについて】

十河信二記念館の整備をきっかけにして、西条市では十河信二氏の生涯を解説する副読本を作成して、市内小学校において教材として活用しているとのこと。また伊予西条駅を中心に整備された四国鉄道文化館においては退役車両の展示以外にも、大型鉄道ジオラマや、ミニSLなど年齢を問わず人気がある。また、年間を通してワークショップなどの市民向け

イベントを行うことで「鉄道の街」を標榜するにふさわしい活動をしていた。  
観光交流センターは、西条市の観光情報発信基地として、様々な情報発信を行うとともに西条市の特産品やグッズの販売、休憩施設の提供や案内業務を行っていた。

#### 【運営体制について】

鉄道歴史パーク in SAIJO の施設群を統括されている加藤館長は、以前、JR 四国の機関士だったそうで、来訪客に対し、自身の経験など踏まえ、展示車両について分かり易く説明をされていた。この施設は委託ではなく西条市の直営で、加藤館長以外は市の職員とのことで、西条市の力の入れようが伺えた。

#### 【まとめ】

当初は米子市のように旧国鉄が認定した「鉄道の町」ではなく、鉄道の結節点でもない西条市が何故「鉄道の町」を標榜しているのか不思議に思っていたが、訪問し直接お話を伺う中で、かつての市長 十河信二氏を顕彰することをきっかけに、関連した鉄道遺産を保全する目的で日本ナショナルトラスト、JR 四国と連携しながら鉄道遺産を活用した町づくりやシビックプライド醸成に熱心に取り組まれた西条市の皆さんに頭が下がる思いがした。かつて法勝寺電車、皆生市電の拠点で、旧米子鉄道管理局（現 JR 山陰支社）が所在し、全国で唯一現役の扇形車庫、転車台が残り、総合車両所がある米子市は名実ともに「鉄道の町」であるが、鉄道遺産を積極的に活用する他市と比べ、現在までその発信力は弱いと言わざるを得ない。そんな中、まもなく引退する 381 系電車は、かつて米子（伯備線）で試験走行された振り子車両「ガスタービン車」を原型としており、ここ米子はこのちに全国で広まった高速振り子車両のメッカともいえる。そして、その完成形となった 381 系電車は JR から借り入れ、長年湊山公園に設置されている D51 蒸気機関車と共に保存展示すべきと考える。保存展示活用には様々な課題があるが、今回の視察を通して、その可能性や方向性、参考とすべき整備内容について大きなヒントを頂けたと感じた。

史跡高松城跡について（報告者 岡田啓介）

日時 令和6年3月29日（金）午前9時～11時30分

場所 高松市立玉藻公園（史跡高松城跡）

令和6年3月29日に、瀬戸の都、高松観光ボランティアガイド協会会長の植松信子氏より現地での説明を受けました。日本3大海城の一つである高松城ですが、現在天守閣はなく、その再建に向けて、行政だけでなく市民運動も行われているとのことでした。そのおかげで、天守閣再建に向けて文化庁との協議も前向きに行われているとのことでした。ただ、天守閣はありませんが、月見櫓、水手御門、渡櫓など1600年代に完成された建造物が、改修は行われていますが現在も残っています。

桜御門は、昭和20年の高松空襲により焼失していましたが、令和4年に再建されています。やはり、多くの建造物が存在することが、観光面でも大きな魅力になることを改めて感じました。また、説明をいただきました植松氏からも大いに感じることもできましたが、天守閣再建への大きなエネルギーを感じることもできました。まずは、文化庁との協議を進めなければなりません、その資料を集めるために、懸賞金を付けて全国から募集したとのことでした。これからの米子城跡の整備においても、多くの示唆を頂きました。

## 行政視察行程表

◎〔自由創政〕田村議員、岡田議員

月 日	行 程	宿泊地
3 / 2 7 (水)	<p>8:29                      8:34                      10:43   11:35                      14:13                      14:26                      14:49                      14:55</p> <p>米子駅 == 伯耆大山駅 == 岡山駅 ===== 松山駅 * JR 松山駅前 == 道後公園駅 ** 湯築城跡</p> <p style="text-align: center;">JR 特急やくも 8 号・岡山行                      しおかぜ 9 号・松山行                      (徒歩 3 分)                      伊予鉄道 5 番 JR 松山駅前線                      (徒歩 2 分)</p> <p style="text-align: center;">(道後温泉行)</p>	【昼食】岡山駅
	<p>◎行政視察 国史跡道後公園湯築城跡 (午後 3 時ごろから 1 時間半程度)                      【資料館】</p> <p style="text-align: center;">(愛媛県松山市道後公園)                      ☎089-941-1480</p>	【夕食】松山市内 【宿泊】 松山東急 REI ホ テル
	<p>16:35                      16:45                      16:55</p> <p>湯築城跡 ** 道後公園駅 == 大街道駅 ** 宿泊先</p> <p style="text-align: center;">(徒歩 2 分)                      伊予鉄道 5 番 JR 松山駅前線                      (徒歩 1 分)</p> <p style="text-align: center;">(JR 松山駅前行)</p>	☎089-941-0109
3 / 2 8 (木)	<p>9:10                      9:23                      9:36                      11:45</p> <p>宿泊先 ** 大街道駅 == JR 松山駅前 * 松山駅 ===== 伊予西条駅 ** 鉄道歴史パーク in SAIJO</p> <p style="text-align: center;">(徒歩 1 分)                      伊予鉄道 5 番 JR 松山駅前線                      (徒歩 3 分)                      予讃線 (多度津行)                      (徒歩 2 分)</p> <p style="text-align: center;">(JR 松山駅前行)</p>	【昼食】 伊予西条市内
	<p>◎行政視察 鉄道歴史パーク in SAIJO (午後 1 時 0 0 分ごろから 1 時間半程度)                      【事務所】☎0897-47-3855</p> <p style="text-align: center;">(愛媛県西条市大町 798-1)</p>	【夕食】高松市内  【宿泊】 JR クレメントイ ン高松
	<p>15:27                      16:54</p> <p>鉄道歴史パーク ** 伊予西条駅 === 高松駅 ** 宿泊先</p> <p style="text-align: center;">(徒歩 2 分)                      いしづち 22 号 (高松行)                      (徒歩 1 分)</p>	☎087-811-1200
3 / 2 9 (金)	<p>9:30</p> <p>宿泊先 ** 高松城西門から入る</p> <p style="text-align: center;">(徒歩 5 分)</p>	
	<p>◎行政視察 高松城玉藻公園 (午前 9 時 3 0 分ごろから 1 時間半程度)                      【高松城玉藻公園】☎087-851-1521</p> <p style="text-align: center;">(香川県高松市玉藻町 2-1)</p>	【昼食】 高松市内
	<p>13:40                      14:34   15:13                      17:25                      17:30</p> <p>高松駅 ===== 岡山駅 ===== 伯耆大山駅 == 米子駅</p> <p style="text-align: center;">快速マリンライナー 36 号                      JR 特急やくも 17 号・出雲市行</p> <p style="text-align: center;">・岡山行</p>	

